

地域医療連携 News

平素より中国労災病院が大変お世話になり、誠にありがとうございます。
地域医療連携News第192号を発行致しました。今後とも連携の程よろしくお願い申し上げます。

中国労災病院理念

働く人と地域の人のために患者中心の良質な医療を提供します。

中国労災病院の基本方針

- 個人の尊厳と権利を尊重し、高度で安全な医療を推進します。
- 地域の医療機関と連携し、救急・急性期から慢性期までの一貫した医療を実践します。
- 最新の医学に基づいた専門的な医療を実践します。
- 働く人の健康を守り、治療と仕事の両立を支援します。
- 周産期医療を充実させ、未来を担う子供たちを支援します。
- 優れた人材を育て、働きがいのある職場づくりを推進します。

初期臨床研修の理念

医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学・医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、日常診療で頻繁に関わる病態に適切に対応できる基本的な診療能力を身につけると共に、崇高な信念と人格をもち、生涯にわたり自己研鑽する態度を身につけた自立した医師を育成します。

初期臨床研修の方針

- ①医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)を修得します。
- ②医学・医療における倫理性を理解し、安全な医療の提供が行えるようにします。
- ③救急医療やプライマリ・ケアなどの診療能力を修得します。
- ④患者中心の思考・行動をする姿勢を修得します。
- ⑤他の医療スタッフ、患者や家族と協調し、良好な関係を築けるようにします。
- ⑥地域の中核病院としての役割を理解し、地域の病院と連携し、地域医療を学びます。
- ⑦症例を通じて、診断・治療の結果だけでなく、プロセスを学びます。
- ⑧他の医師や同僚とともに研鑽しながら、生涯にわたって学ぶ姿勢を修得します。

1. | 令和7年(2025年)を迎えて新年のご挨拶 —中国労災病院開院70周年を迎えて—

皆様、令和7年(2025年)明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、元旦に能登半島地震、2日に羽田空港での航空機の衝突事故の発生、と天災と人災による年明けで大変な一年のスタートでした。干支では甲辰でした。その後も線状降水帯による地域限局型や活発化された前線による同時広範囲豪雨の発生などで、追い打ちをかけるような自然災害が発生致しました。ロシアによるウクライナ侵攻が治まる様子なくイスラエルと周辺アラブ諸国との衝突、韓国の尹錫悦(ユン・ソンニョル)当時大統領の非常戒厳発令、シリアにおけるアサド政権の崩壊、など政治的にも不安定な一年でした。年明け

にはアメリカ大統領にトランプ氏が復活し、米国と世界とのバランスがどのように変わっていくのか、中国と台湾の関係、北朝鮮との関係、等々上げればきりが無い位の世界的社会変動・不安定の状態です。



中国労災病院 院長
栗栖 薫

このような大きな世界の変化の中、当院は本年開院70周年を迎えます。ヒトで言えば古希に相当します。(実は私も4月に満70歳を迎えます。)もとはと言えば、中国5県、四国4県の首長が労災病院誘致期成同盟会を昭和27年に結成し、昭和29年に国有地提供を受け工事に着工し1年足らずで開院

までこぎつけました。昭和30年3月に内科、外科、整形外科の合計50床で初代院長に伊藤肇先生を迎え開院しました。名称としてこの9県の労災病院誘致期成同盟会の思いを込めて、広島でも呉でもなく中国が付けられました。ちなみに中国四国地区で、米子に山陰労災病院がありますが、あとは岡山労災病院、山口労災病院、香川労災病院、愛媛労災病院、と9県に6つの労災病院がありません。

これまでの中国労災病院の発展は多くの方々のご支援によりなされてきました。改めまして、開院から持続的に指導を頂きました、関係の皆様は厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。特に、多くの優秀な医師を派遣してこられました広島大学医学部の臨床系の各教室の皆様、広島県・呉市の消防、警察を含む行政の皆様、広島県医師会・呉市医師会を中心に医師会の皆様、看護協会の皆様、歯科医師会の皆様、薬剤師会の皆様、リハビリテーションの関係の皆様、2024年秋のデータでは350を超える連携医療施設の皆様、そして機構本部から全国区で活躍されてきた事務の皆様、労災病院間で移動を余儀なくされながらもそれぞれの領域で力量を発揮されてこられました医療職の皆様、加えて「当院がかかりつけ医」と呼んで下さる呉市東部の阿賀・広・郷原地区を始め、江田島・倉橋・音戸地区、焼山地区、川尻・安浦地区、とびしま四島、そして東広島市南部の黒瀬・安芸津地区、大崎上島、更には竹原市からの多くの患者さんとそのご家族の皆様、その他有形無形のご支援とご援助を頂きました多くの方々に心から感謝申し上げます。また時には、辛口のご批判やご叱責など賜り、その都度病院の質的改善に大いに役立ちました。本当にありがとうございました。

この70年間に社会は大きく変化しました。医療の世界もご多分に漏れず大発展しております。そ

れぞれの診療科の専門化が更に発展し、診療科の中でも細分化が進む中、多くの客観的なデータが収集されEBM (evidence based medicine) が当たり前となり、自身の経験や直感に頼った判断は極限られた範囲での認識となりました。それぞれの疾患や領域における診療ガイドラインが作成され、推奨度が提示され、臨床的疑問によってより具体的な対応が判断できるようになりました。一方外科的処置はどんどん侵襲度が下がり、小さな傷で小さな生体環境の変化でより効率的な診断や治療ができるようになりました。内科系はむしろより積極的に介入し従来であれば外科的対応であった領域も内科医が出来るようになってきました。その代表的技術が血管内治療や内視鏡治療になります。画像診断も長足の進歩がありました。長年脳そのものを映し出すことができませんでしたが、1975年(昭和50年)に頭部専用のX線コンピューター断層装置、いわゆるCTが登場し、画像診断は大きく変わりました。その10年後に核磁気共鳴装置、いわゆるMRIが登場し、更に細かい像、性格が違う病変の検出、造影剤を使わない血管像、など登場してきました。更に核医学も進歩して、形態的な診断から機能的な診断も可能となりました。

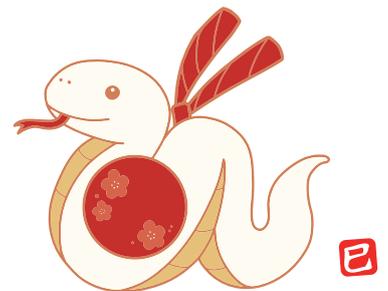
お薬は、たとえば、患者さんの病気の性質によってできるだけ副作用の少ない、またピンポイントで異常な部分を認識する分子標的薬が登場し、それまで制御できなかつた病態が全てではありませんが、制御できるようになりました。最近ではAIを用いた創薬が進んでいます。また直接肉眼で行ってきた手術を手術用顕微鏡や内視鏡、最近では外視鏡、更にはロボット支援で内視鏡手術を行ったりできるようになりました。これらの手術に関する様々なデジタル情報を時間的に同調した情報としてサーバーに集め、それらの情報を生かしたスマート治療室も開発されて2016年から広

島大学病院で臨床に応用されています。その開発に関わった一員として大変うれしく思っています。

以上我々の領域のこの70年間の長足の進歩の一部を紹介させて頂きました。当院においても、内視鏡検査・治療センター、純国産の内視鏡手術支援ロボットhinotori™を設置したロボット手術センターなど高度専門的医療の実践と更なる推進を具体的に進めています。当院の名前の由来を先ほど述べましたが、本来の当機構の目的である働く人の治療と仕事の両立を支援する、いわゆる治療就労両立支援センターが当院に設置されており、令和5年からは初期臨床研修医の必修プログラムとして両立支援も取り込んで教育しております。医療の原点は救急にあり、と言われていますが、断らない救急を目指して、職員が夫々の立場で対応してくれています。そして次世代を大切に育てていくことも含めて呉市内で最も若い世代の家庭が多い広地区おける周産期医療も今後も継続していき

ます。

令和7年は干支でいいますと乙巳(きのと・み)になります。乙(きのと)は十干の2番目で「木」の要素を持ち、草木がしなやかに伸びる様子や横へと広がっていく意味を持ちます。巳(み・へび)は神様の使いとして大切にされてきた動物で、脱皮を繰り返すことから不老不死のシンボルともされています。そのため乙巳の年は、「再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年」になると考えられます。この干支にあやかって、本年が皆様にとって安全・平和で発展が継続される輝かしい年になりますよう祈念させて頂きまして年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



2. | 前立腺肥大症でお悩みの患者さんはいませんか？ 「経尿道的水蒸気治療」のご提案



腎泌尿器外科部長
小林 加直

前立腺肥大症でお悩みの患者さんに、新しい治療法『経尿道的水蒸気治療』はいかがでしょうか？この新しい治療法は、身体的負担が少なく、患者さんのQOL(生活の質)を向上させる画期的な方法です。

度で効果が発揮されます。以下の3つの特長があります。

短時間：手術時間は約10分で終了。

負担が少ない：痛みや出血がほとんどなく、

抗凝固薬の服用中でも治療可能。

日常生活への早期復帰：術後数日で退院可能。

経尿道的水蒸気治療とは？

この治療は、高温の水蒸気を用いて肥大した前立腺組織を縮小させる、最先端の低侵襲治療法です。即効性は期待できませんが、術後1~2か月程

どのような患者さんが対象となるの？

「薬を減らしたい」「尿道カテーテルから解放されたい」といった希望をお持ちの患者さんで、全身麻酔が可能な方が対象です。性機能への影響が少

なく、幅広い年齢層で選択肢となります。また、従来の手術や薬物療法に代わる新しい選択肢として、患者さんの生活改善に大いに役立つと考えられます。特に以下のような患者さんがよい適応となります。

- 排尿障害の内服薬をやめたいと思っている患者さん
- 尿道カテーテル(長期留置)の抜去を期待している患者さん
- 抗凝固薬服用中のため従来手術が難しいとされている患者さん

ご相談・ご紹介について

貴院に上記のような患者さんがおられましたら、ぜひ当院へご相談ください。私たち腎泌尿器

外科の専門スタッフが、詳細な情報提供および適応判断のお手伝いをいたします。



3. | 救急対応のご依頼について

緊急な診察を要する患者さんのご紹介は、医師が症状等を電話で直接お伺いいたします。

下記までご連絡いただきますようお願いいたします。

【平日8:15~17:00】

TEL.0823-74-0321 (連携室直通)

【上記以外の平日夜間・土日祝日】

TEL.0823-72-7171 (代表)



地域医療連携ニュース第192号

〒737-0193 広島県呉市広多賀谷1-5-1 Tel.0823-74-0321 Fax.0823-74-6260
中国労災病院 患者サポートセンター <https://www.chugokuh.johas.go.jp/regionalPartner/>



発行日：令和7年1月20日